

キアゲハ蝶の羽化

(2020. 8. 10)

玄関わきのプランターにパセリを一株植えておきました。7月下旬のこと、なんと、写真のような2匹の芋虫を発見しました。身体の色、形から「アゲハチョウ」の幼虫に違いありません。

一株しかないパセリです。腹ペコの2匹のあおむしの食欲にはかないません。見ての通りです。芯を残して、葉の部分は食べつくされて行きました。



この勢いで食べ進むと2匹は食料不足で育たないのでは、不安もよぎりました。とにかく、「モリモリ」です。

絵本の「はらぺこあおむし」をほうふつとさせます。

あおむしは形態から、アゲハには変わりないのですが、頭に大きな黒い眼のような文様がありません。また、頭の部分が角張らず、のっぺりとしています。

情報によれば、アゲハの仲間の種類は多く、「クロアゲハ」、「アオスジアゲハ」、「カラスアゲハ」等は黒い大きな目のような文様を持っているようです。この種の餌は、「サンショ」、「みかん」、「レモン」等の柑橘類を好みます。旺盛な食欲は、「食害」と表現され、商品生産の外敵になっています。



我が家のパセリを食べつくした、あおむしの種は、「キアゲハ」でした。「パセリ」、「ミツバ」、「ニンジン」等のセリ科の野菜の葉を食としています。

いぜんとして、2匹は止まることのない勢いで食べ進み、みどりの葉の部分を食べつくしてしまいます。食害です。

一株のパセリに2匹。不思議なことに飢え死にすることはありませんでした。親の蝶が産卵するとき、見極めていたのでしょうか。自然界の妙と云えます。2匹のための食の量は十分だったようです。パセリは丸坊主となりました。

幼虫の1匹は、細い棒の先にとどまり暫し動きません。ここで、サナギになるのでしょうか。他の1匹は姿が見えません。新天地を求めたのでしょうか。

次のステージが楽しみです。

サナギです。

2・3日後、玄関先に置いたメダカ水槽に使っていたブリキのふた、内側に写真のようなサナギを発見しました。

姿が見えなくなったアオムシでしたが、サナギになっていたようです。しかも、金属性のブリキのふたに。

羽化する姿を観察しようと、サナギを玄関内の下足箱の上に移し、時を待つことにしました。



今か今かと、羽化の時、サナギから出る瞬間を待ちました。少しの動きを見届け、カメラをとりに戻った瞬間のことでした。

サナギのからを脱ぎ捨てたキアゲハが止まっていました。前足でしっかりと身体を支えています。

残念ながら、羽化に立ち会えませんでした。



玄関内の下駄箱の上、鏡の前、ブリキのふたで羽化したキアゲハです。
羽化には、サナギから抜け出す潤滑の水分が必要なのか、水滴が所々についています。羽は閉じられ、伸び、乾くのを待ちます。
待つこと30分ほど、小さな羽ばたきを数回、そして、大きく羽が伸びきり、ひろげられました。キアゲハの誕生です。



今夏、我が家では羽化、2例目です。不思議なのは、サナギはアルミサッシ、ブリキのふた、金属で羽化を待ったことです。庭の木々ではありませんでした。
意味ありかな？